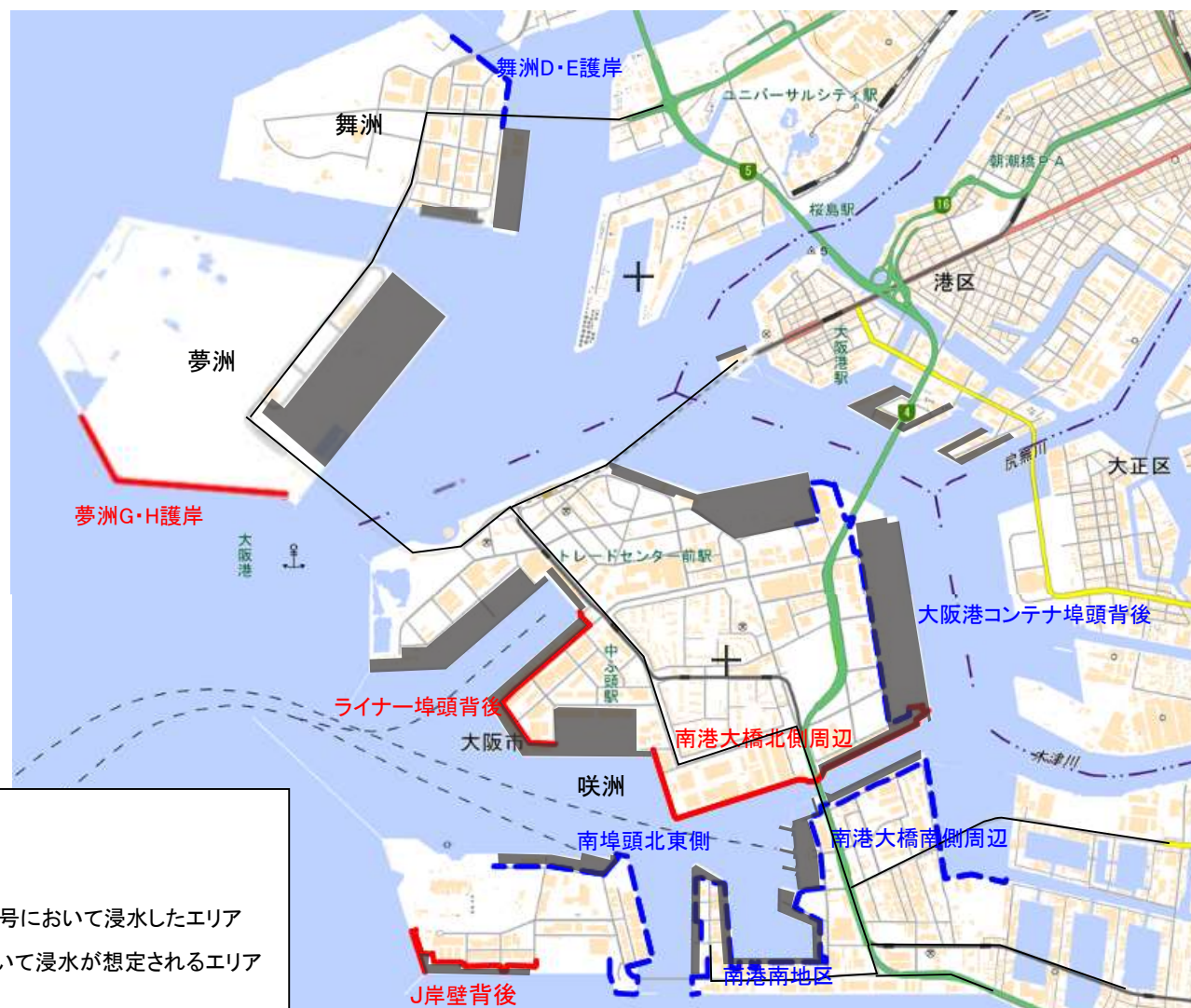


3-1 各施設の対策について【浸水対策の防護ライン（案）】

(1)防護ライン(案)設定の考え方

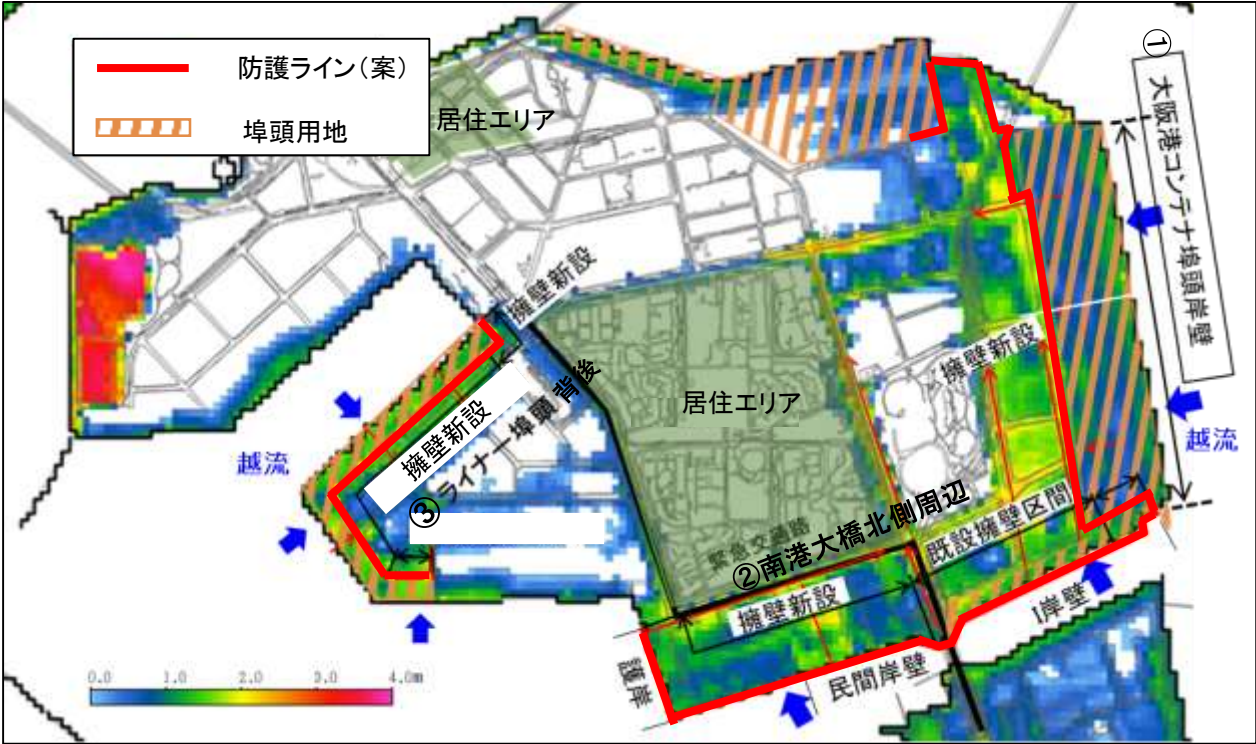
・人命や埠頭用地背後の民間倉庫や立地企業等の資産を最大限防護するため、以下の順序で考え、ラインの設定を行った。

- 1 既存施設(擁壁等の嵩上げ)の活用
- 2 埠頭用地において港湾荷役等に支障とならない場所
- 3 現地状況により、対策施設の設置が可能と思われる場所



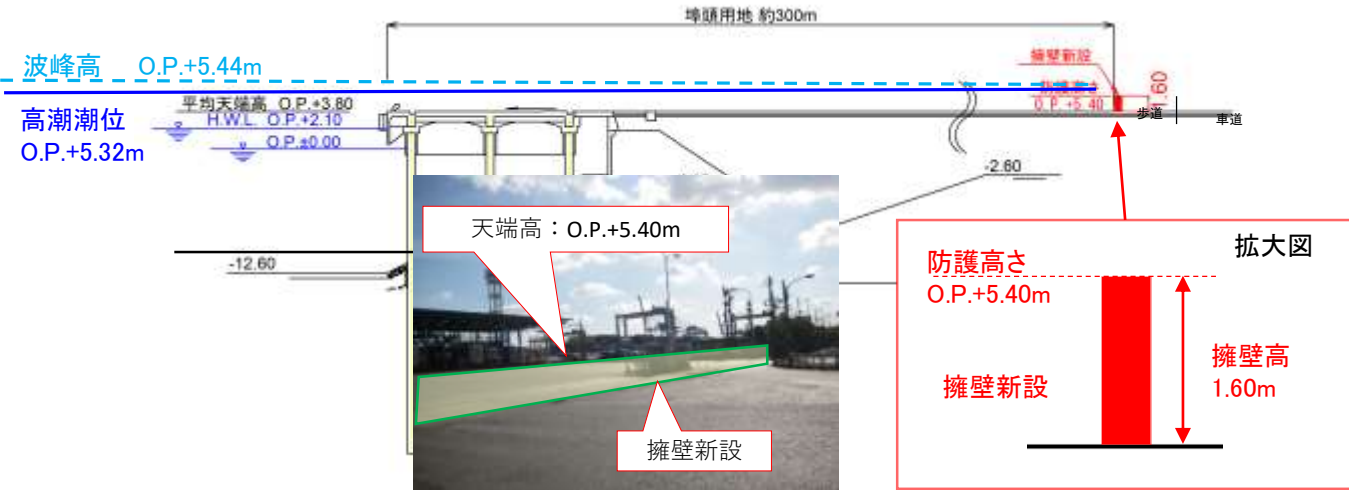
3-2 防護対象エリアの対策案【ライナー埠頭背後、南港大橋北側周辺、大阪港コンテナ埠頭背後】

浸水シミュレーション結果（ケース③）及び防護ライン（案）



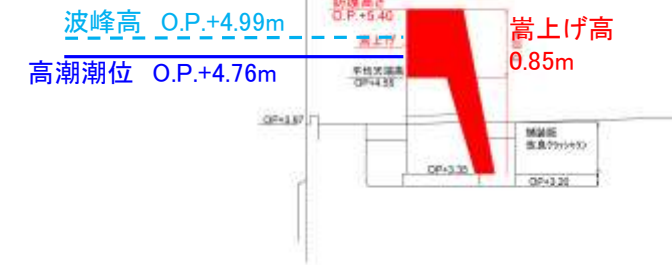
○対策内容について
護岸及び民間岸壁に新たな擁壁を設置するとともに、I岸壁背後では既設擁壁の嵩上げを行う。

①大阪港コンテナ埠頭岸壁：擁壁新設 2.8km、擁壁高1.6m

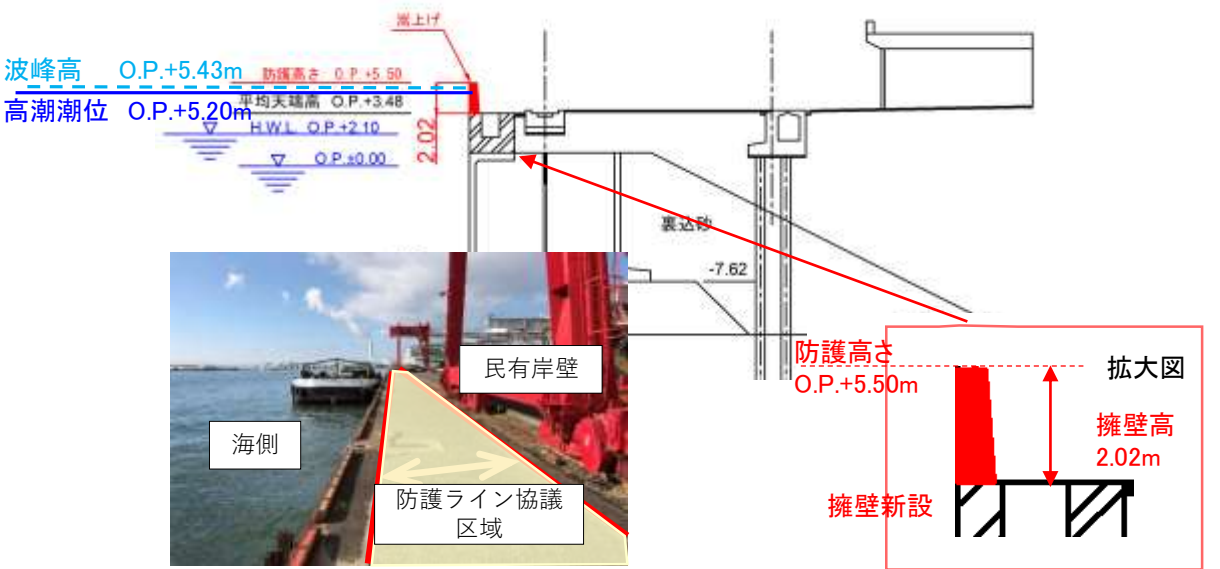


②南港大橋北側周辺：既設擁壁嵩上げ及び擁壁新設 2.7km

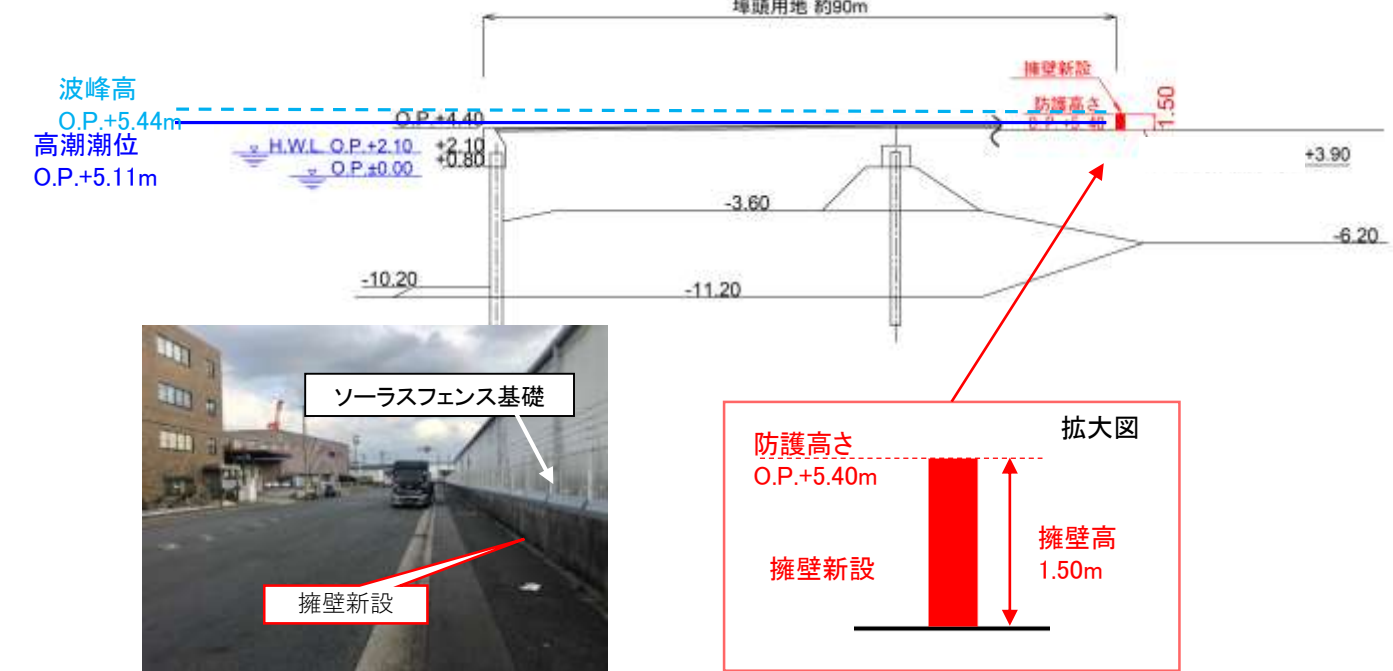
・I岸壁：既設擁壁嵩上げ 1.2km、嵩上げ高0.85m



・民間岸壁：擁壁新設 0.5km、擁壁高2.02m



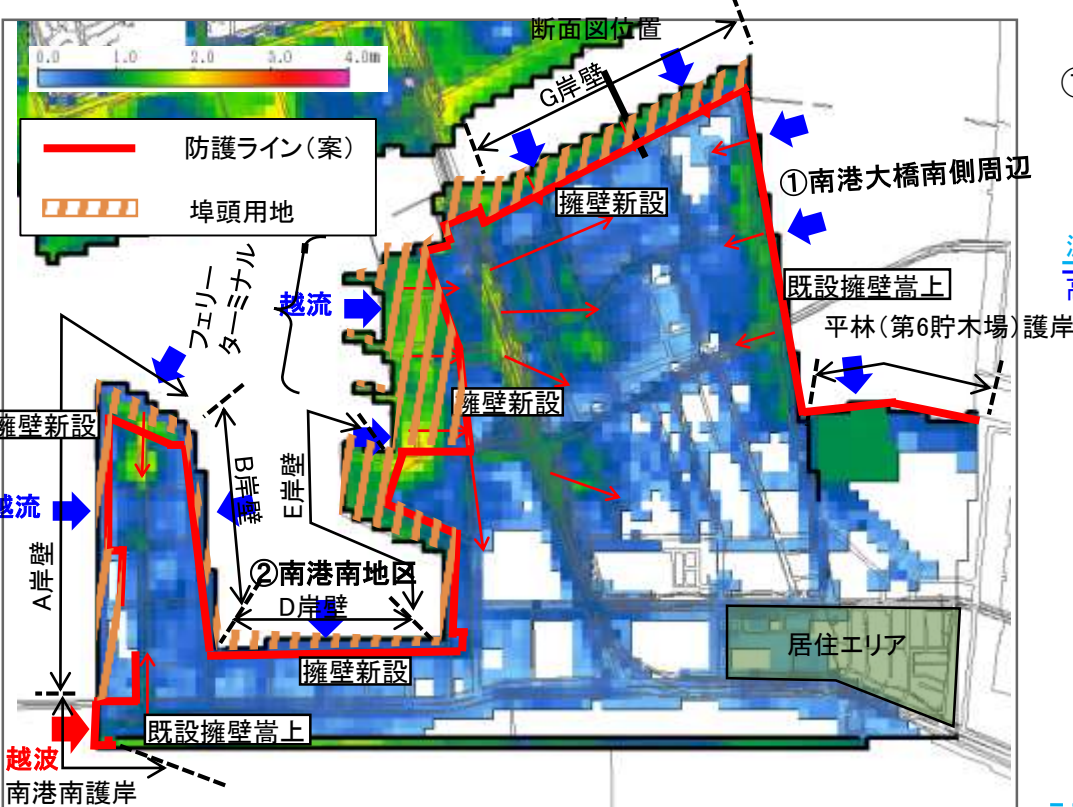
③ライナー埠頭背後：擁壁新設 1.4km、擁壁高1.50m



・対策案については計算結果に基づき現時点で想定したものであり、実施の際には岸壁利用者等との協議により決定する。

3-3 防護対象エリアの対策案【南港大橋南側周辺・南港南地区】

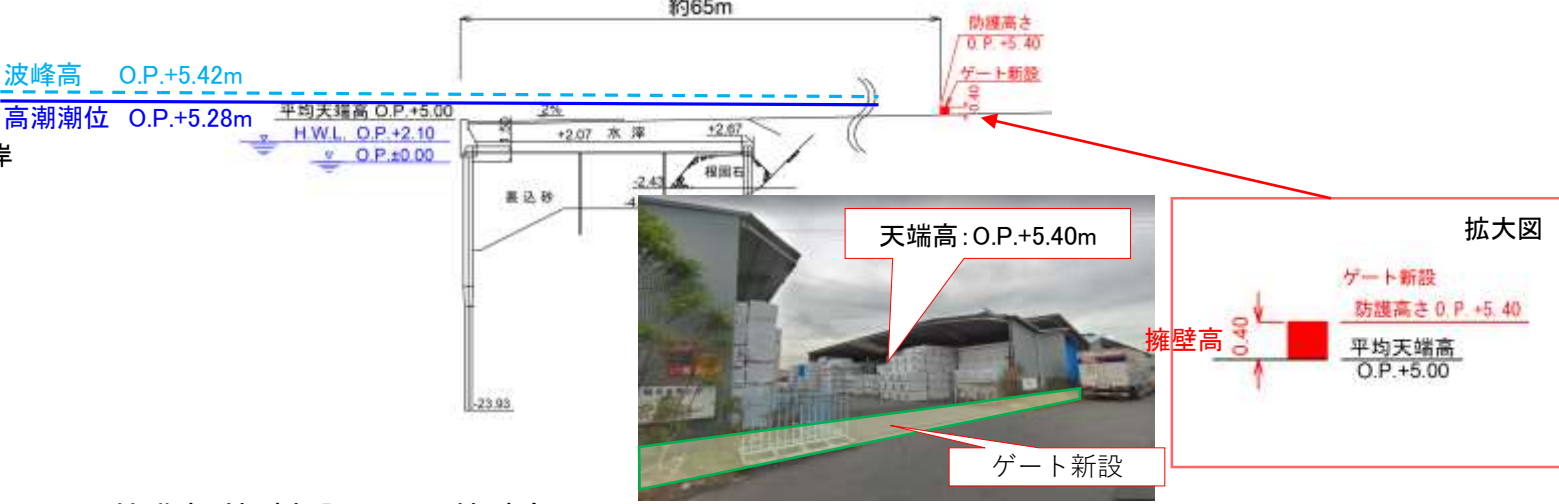
浸水シミュレーション結果（ケース③）及び防護ライン（案）



○対策内容について
南港南護岸西側・G岸壁東側護岸・平林護岸にて擁壁の嵩上げを行う。またその他の箇所については新たに擁壁を設置する。

①南港大橋南側周辺(G岸壁、平林護岸、フェリーターミナル等)：擁壁新設等 3.0km

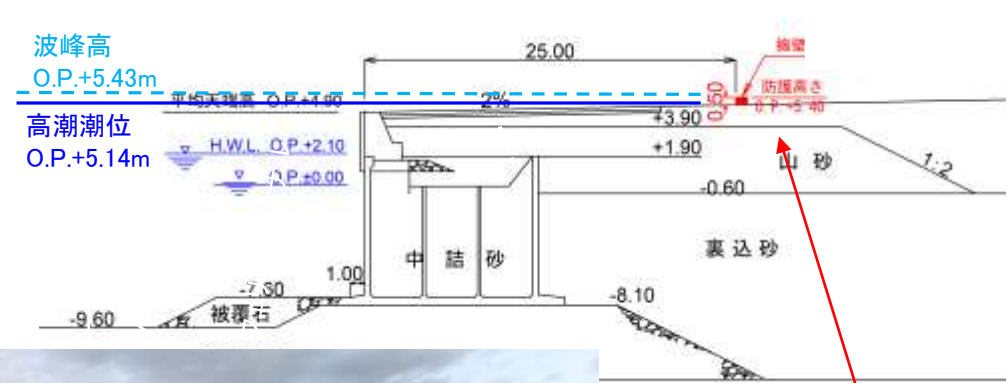
・G岸壁：擁壁新設1.1km、擁壁高0.4m



・平林護岸：擁壁新設1.3km、擁壁高0.7m



・A岸壁：擁壁新設1.1km、擁壁高0.5m



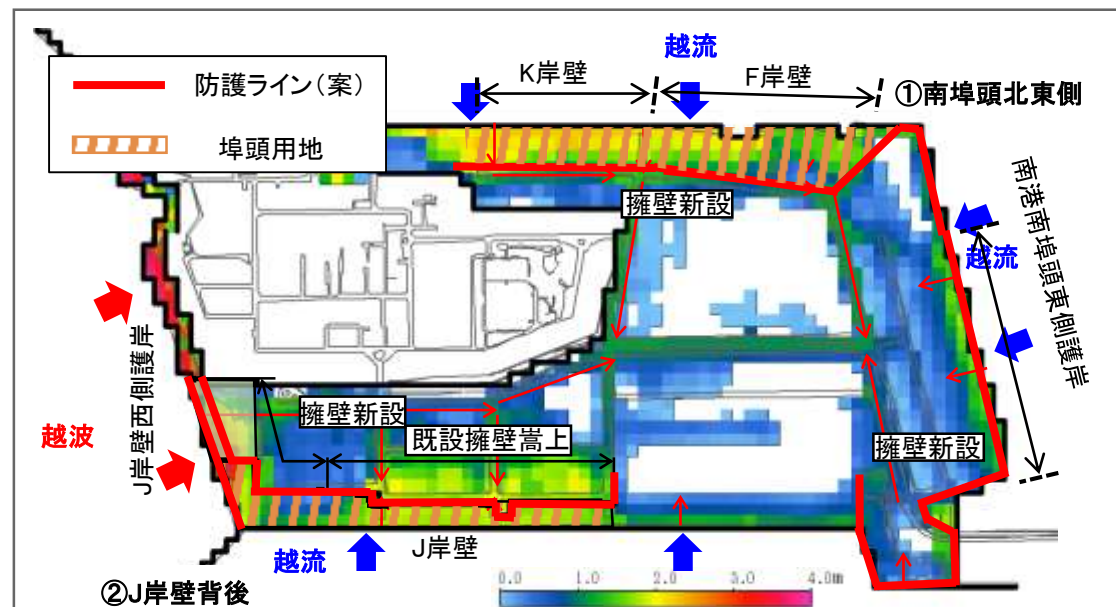
・南港南護岸：既設擁壁嵩上げ及び擁壁新設 0.2km、擁壁高0.93m



・対策案については計算結果に基づき現時点で想定したものであり、実施の際には岸壁荷捌き地、上屋等の利用に支障とならないよう岸壁利用者等との協議により決定する。

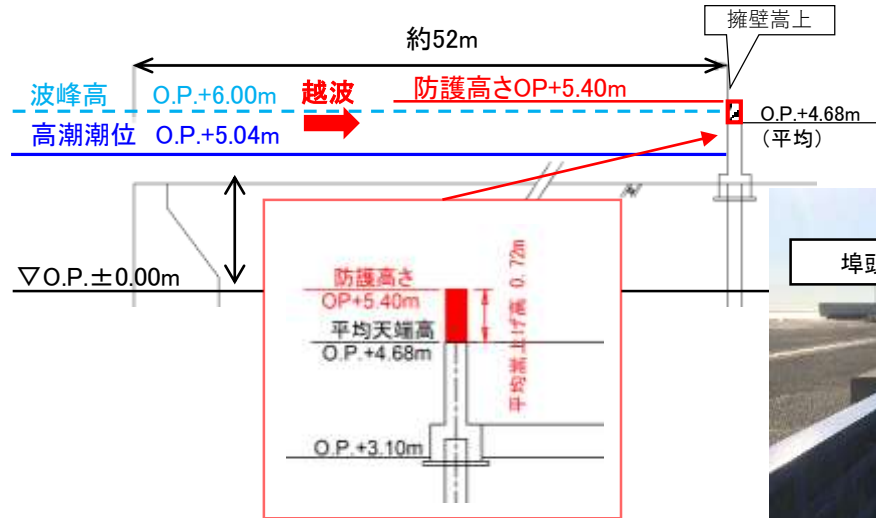
3-4 防護対象エリアの対策案【J岸壁背後、南港南埠頭北東側】

浸水シミュレーション結果（ケース③）及び防護ライン（案）

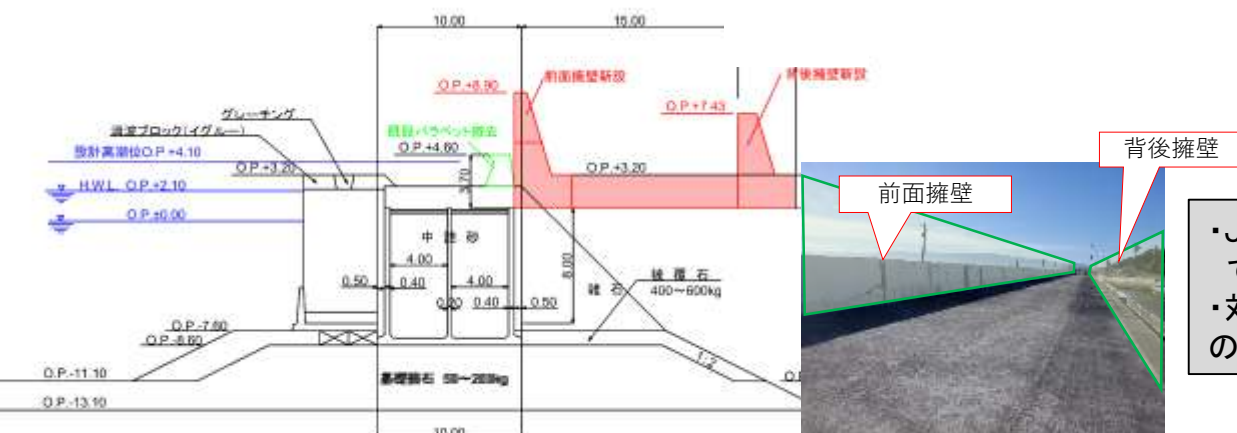


○J岸壁背後(J岸壁・J岸壁西側護岸)：既設擁壁嵩上げ、擁壁新設 1.6km

・J岸壁背後：既設擁壁嵩上げ、擁壁新設 0.9km、擁壁高0.72m



・J岸壁西側護岸：既設擁壁嵩上げ、擁壁新設 0.7km、嵩上げ高5.0m(二重防護の場合)



○対策内容について

J岸壁背後では既設擁壁及びゲートの嵩上げを行い、その他擁壁の新設を行う。

①南埠頭北東側：擁壁新設等 2.4km

・K岸壁：擁壁新設0.8km、擁壁高2.0m

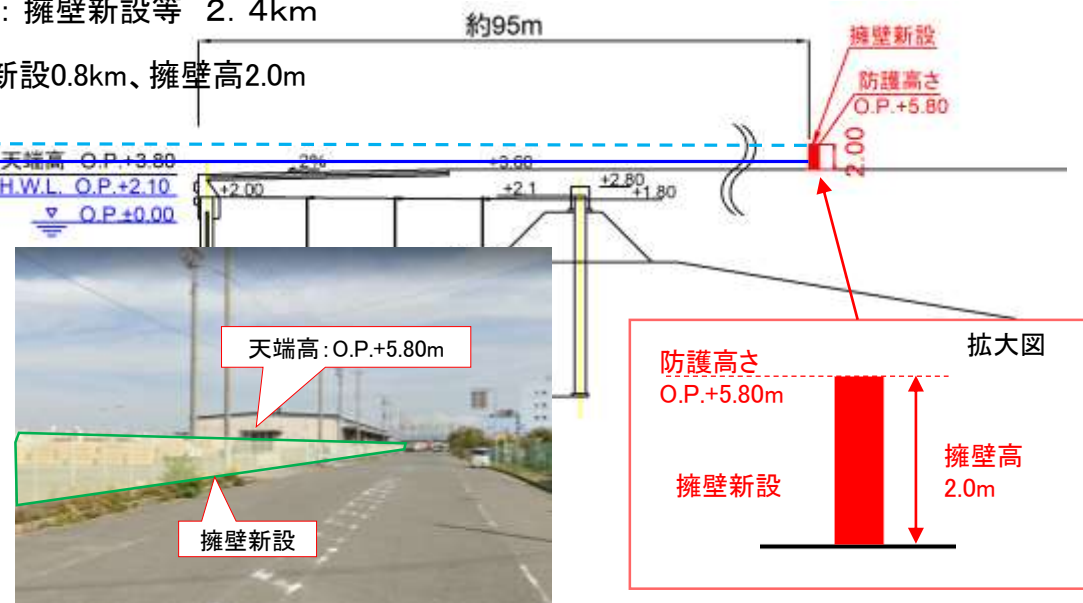
波峰高 O.P.+5.83m

高潮潮位 O.P.+5.08m H.W.L. O.P.+2.10

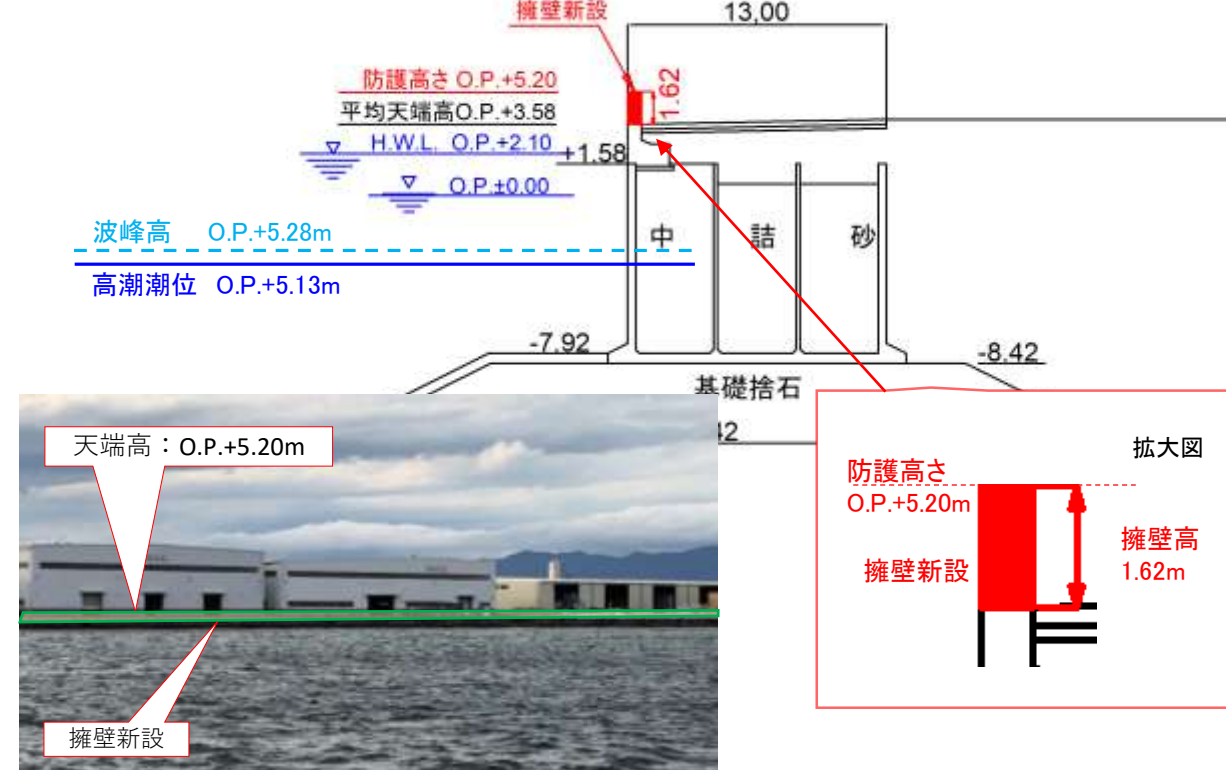
平均天端高 O.P.+3.80

▽ O.P.+0.00

拡大図



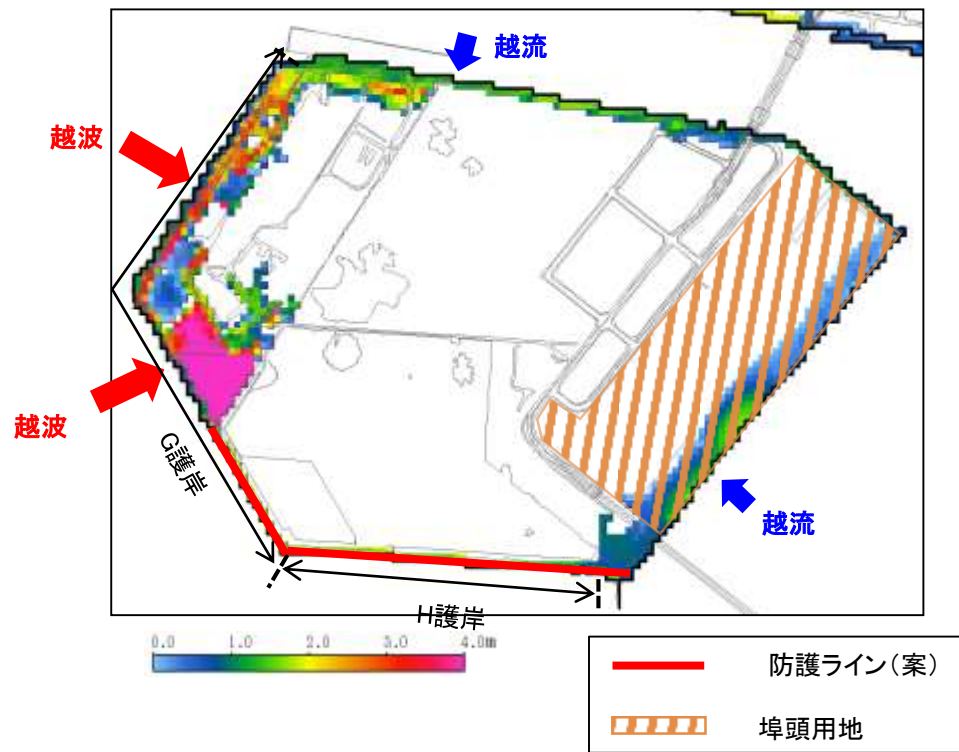
・南埠頭東側岸壁：擁壁新設1.6km、擁壁高1.62m



・J岸壁西側護岸については、今後、基礎の構造形式等について詳細に検討し、費用比較を行うことで、対策断面を決定する。
・対策案については計算結果に基づき現時点で想定したものであり、実施の際には岸壁利用者等との協議により決定する。

3-5 防護対象エリアの対策案【夢洲G護岸,H護岸】

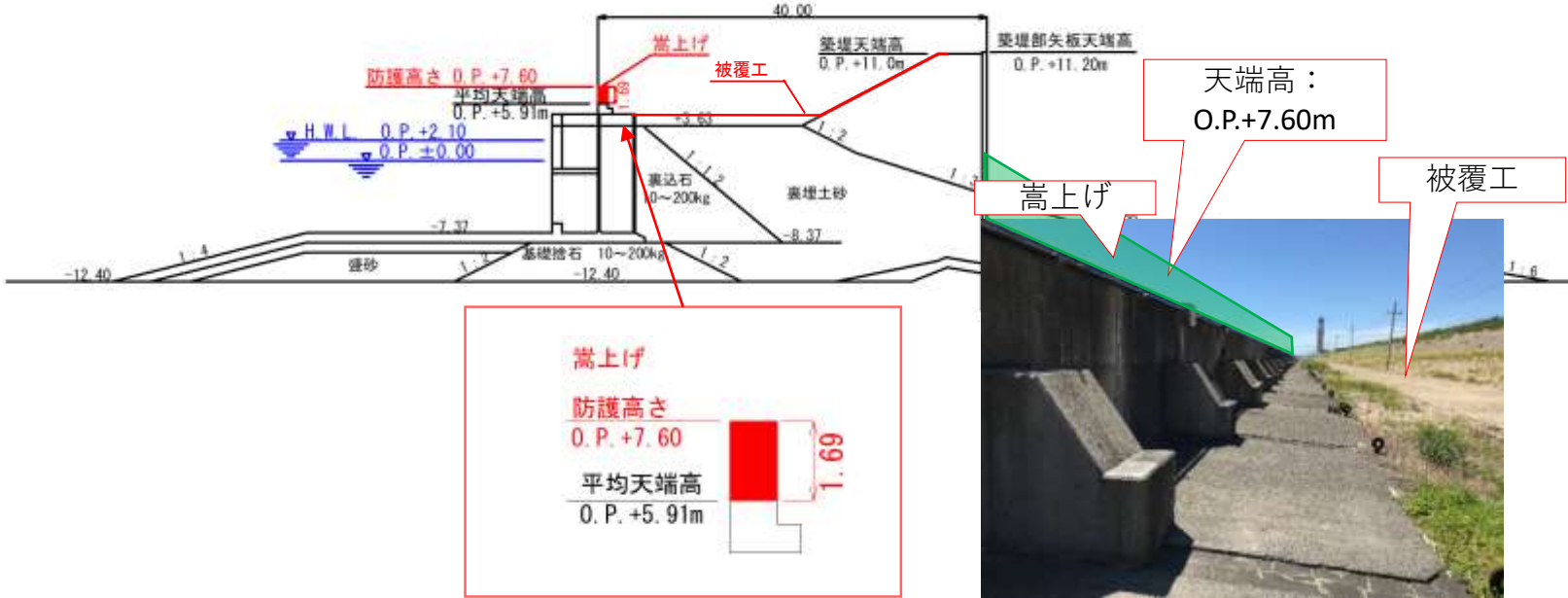
浸水シミュレーション結果（ケース③）及び防護ライン（案）



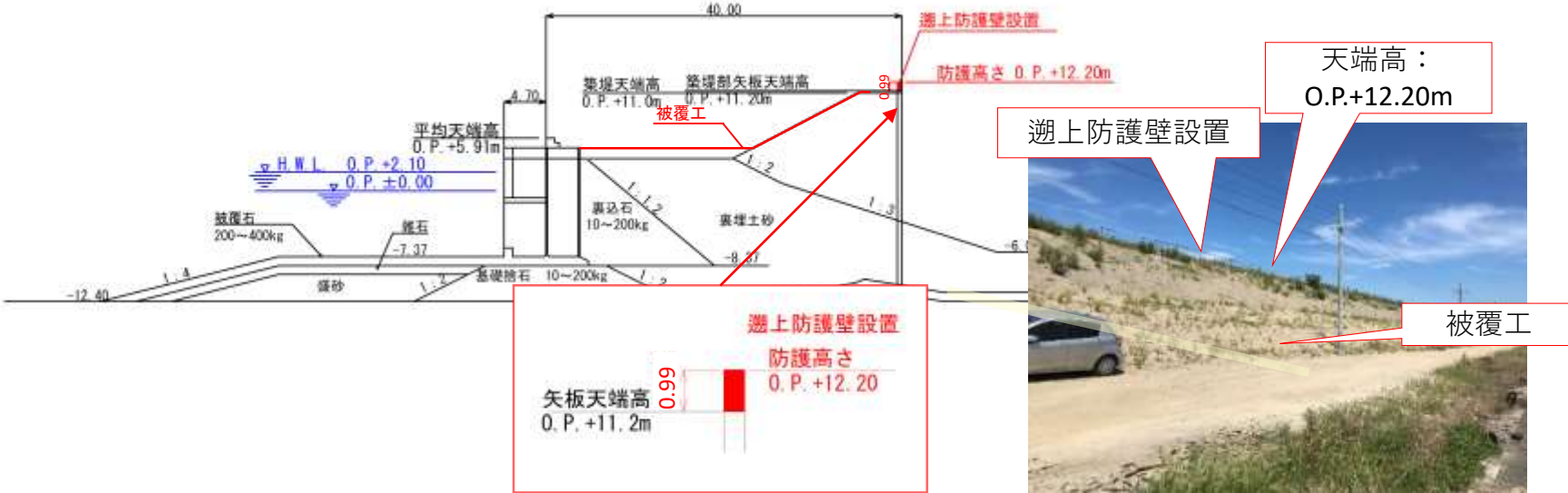
○対策内容について
築堤法面を保護すると共に、既設上部工嵩上げ又は築堤部に遡上防護壁を設置する。

- 夢洲G護岸・H護岸 築堤法面被覆及び嵩上げ又は遡上防護壁設置 1.7km
- ・夢洲G護岸(H護岸)

対策案①: 法面被覆工及び前面嵩上げ 嵩上げ高1.69m (H護岸 0.89m)



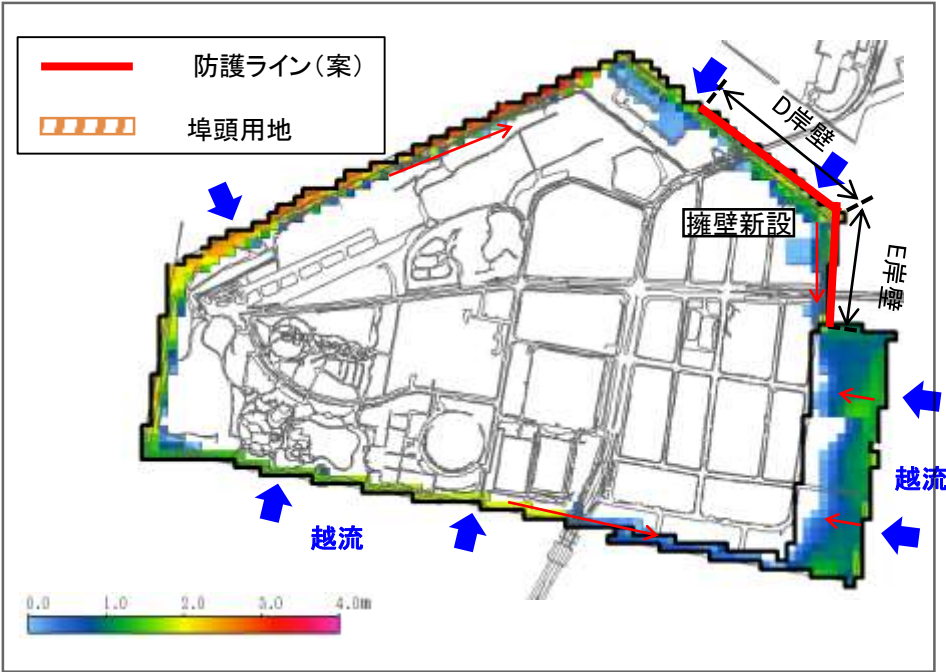
対策案②: 法面被覆工及び築堤部遡上防護壁設置 0.99m(H護岸 0.29m)



・対策については、万博等の整備計画にあわせて対策箇所を決定する。

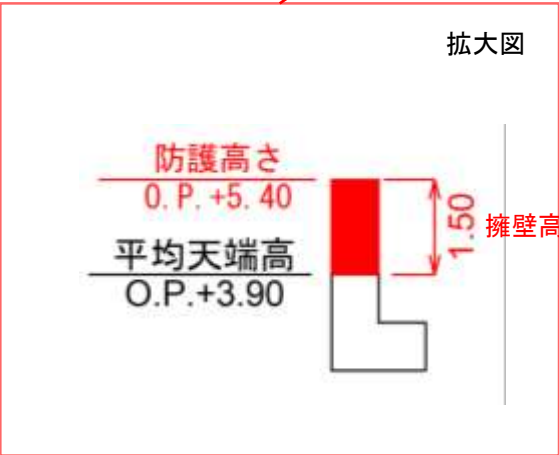
3-6 防護対象エリアの対策案【舞洲D・E護岸背後】

浸水シミュレーション結果（ケース③）及び防護ライン（案）



○防護ラインについて
・D護岸、E護岸からの越流による民間事務所等の浸水を防ぐため、対策を実施する。

○舞洲D・E護岸：擁壁新設0.9km、擁壁高1.5m



・対策案については計算結果に基づき現時点で想定したものであり、実施の際には沿道事業者等との協議により決定する。

4 対策後地形による浸水シミュレーション結果

最大浸水深分布の比較

- ・対策前と対策後の浸水シミュレーション結果を比較する。対策後は防護ラインの効果により最大浸水深分布が縮小していることが確認できる。

対策前の計算結果



浸水深(m) 0.0 1.0 2.0 3.0 4.0m

対策後の計算結果



浸水深(m) 0.0 1.0 2.0 3.0 4.0m

5 今後の進め方

・平成30年台風第21号で被害を受けた箇所を短期(令和2年～令和4年)、伊勢湾台風級で対策が必要であると想定される箇所を中期(令和5年～令和9年を目途)とし対策を行う。

《事業スケジュール》

対策箇所			延長	対策案概要	対策時期(案)
咲洲	J岸壁 背後	J岸壁	0.9km	擁壁及びゲート嵩上	短期 (令和2年～令和4年)
		J岸壁 西側護岸	0.7km	上部工嵩上・擁壁新設等	
	南港大橋 北側周辺	I岸壁	1.2km	擁壁嵩上	
		民間岸壁・護岸	1.5km	擁壁新設	
	ライナー埠頭背後		1.4km	擁壁嵩上・ゲート設置	
夢洲	G・H護岸		1.7km	法面被覆・嵩上等	中期 (～令和9年)
咲洲	大阪港コンテナ埠頭背後		2.8km	擁壁新設等	
	南港南地区		3.5km		
	南港大橋南側周辺		3.0km		
	南埠頭北東側		2.4km		
舞洲	舞洲D・E護岸背後		0.9km		
	合計		20.0km		

➤ 今後、対策の詳細位置やゲート形状等、岸壁利用者や埠頭所有者と協議を行い、対策を進めていく。